

校内研究だより

新磯小学校

研究主題:「学ぶ楽しさを、共に創る子の育成」

第4学年 小林級 研究授業

7月24日発行

1 これまでの授業づくりから

今回の研究授業では、本校の3つの研究仮説を基に、学年・学年団で繰り返し協議を重ねながら単元づくりを進めました。

単元のゴールは、「叙述を基に自分の考えをもつこと」と、「読み方には多様性があり、その面白さに気付くこと」の2点です。そのため、単元の導入では初発の感想を基に子どもたちとロードマップを作成し、学習の見通しをもたせることで、学びを自分事として捉えられるようにしました。また、家庭学習では音読カードに問いを設定し、ただ音読するだけではなく、考えながら読む習慣づくりにも取り組みました。

授業では、「なぜそう思ったの?」「どこを読んでそう思ったの?」という問い返しを日常的に繰り返し、児童が叙述を根拠に考えられるよう指導を積み重ねました。さらに、学びの足跡を教室内に掲示し、これまでの学習を振り返りながら考えを深められるよう工夫しました。さらに、児童が見通しをもちながら学習を進められるよう、毎時間、めあてに応じたワークシートを作成し、その時間に考えることや叙述を書く欄、友達との交流で考えを書き加えられるよう工夫しました。

本時の構想では、「一つの花」と「ちいちゃんのかげおくり」をどのように関連付けるかが学年で最も悩んだ点でした。当初は2冊の本文から共通点を見つけ出す内容の予定でしたが、協議や事前授業を通して、子どもたちが叙述を根拠に自分の考えを形成し、友達と話し合う中で読みの楽しさを広げることを中心に据えることにしました。今回の単元づくりを通して、授業は一時間だけで完成するものではなく、単元全体を通した手立てや学年での対話の積み重ねが、子どもたちの学びを支えることを改めて実感することができました。



2 研究授業や協議から学んだこと

先日行われた研究授業および協議会では、今後の授業実践につながる多くの学びを得ることができました。

授業では、「叙述に基づいた思考の深まり」を目指し、教師が日常的に「どうしてそう思ったの?」と問い返すことで、児童が教科書の叙述を根拠として自分の考えを形成する姿が見られました。また、毎時間のめあてに応じたワークシートや、教室内に掲示した「学びの足跡」を活用することで、児童がこれまでの学習を振り返り、見通しをもって主体的に学習へ取り組む様子も印象的でした。

協議会では、こうした問い返しや児童主体の学びを支える手立ての効果をも共有するとともに、平城指導教諭から、国語科授業における「めあて」と「ゴール」を明確に位置付けることの重要性についてご指導いただきました。特に、授業の重点目標を明確にすること、「話し合い」を目的とするのではなく、自分の考えを形成し、その理由を交流するための手段として位置付けること、さらに、板書の工夫や思考の可視化など、児童の思考モードを切り替える教師の働きかけの重要性について学びました。

今回の学びを生かし、児童一人一人の考えをより確かなものにするため、毎時間のめあてに応じたワークシートの在り方や、意見交流が形式的にならないための教師のコーディネートについて、今後の校内研究でさらに実践を重ね、研究を深めていきたいと考えています。

